

庄内町保健医療福祉推進委員会議事録

開催日時：平成26年2月13日（木）午後1：30～3：30

場 所：余目保健センター

出席委員：菅原源也、奥山輝美、太田博之、渋谷孝士、佐藤昭一、佐藤トク、小林義廣、河村敏、富樫良秋、本田一夫、竹田禎、森居慶

出席職員：水尾保健福祉課長、佐藤保健福祉主幹、高山課長補佐兼健康推進係長、長南主査兼健康福祉係長、佐藤主査兼介護保険係長、鈴木主査兼子育て応援係長、主任渡部恵子、主事渡部聡子

内容は次の通り

1 開会

2 あいさつ

…富樫会長

3 報告事項

(1) 日常生活圏域高齢者ニーズ調査について

…資料5で佐藤主査説明

(2) がん検診について

…資料1で長南係長説明

Q. 国、県の目標はあるが町の目標はどうなっているのか。

A. 町の目標は立てられていない。

(3) 次世代育成支援対策行動計画（子育て応援プラン）年次報告について

…資料2で鈴木主査説明

Q. 15P短期支援事業は遠くの施設ばかりであるが

A. この施設は虐待などで措置が必要となる場合で利用者は0である。

Q. 保育園の待機児童0となっているが町外の入園児は本人の希望なのか。

A. 今年度待機児童1名発生。0歳児が定員いっぱいとなっている。

町外であれば空きがあれば入ることは可能。民営化も含めて検討中である。

(4) へき地保育所（立谷沢保育園）閉園について

…資料3で鈴木主査説明

富樫委員：スムーズに閉園できるように準備をお願いしたい。

(5) 放課後児童健全育成事業（学童保育所）について

…資料4で鈴木主査説明

Q. なぜ、第四学区は夏休みの期間だけ試行なのか。

A. 公共施設の公民館、第四幼はむずかしく、第四小で試行してから実施場所を決めることにしている。学校側で支障のない夏休み期間に実施することにした。

4 協議

(1) 庄内町新型インフルエンザ対策行動計画(案)について…資料6で高山補佐説明
菅原委員：2009年のA/H1N1開業医での対応について

症状で区別はむずかしい。検体検査。免疫がない。感染力が強い。日本海病院に特別外来ができた。かぜの症状できたときはすべて婦人科のスペースで診察。車で診察もした。町内の余目病院での受け入れは可能なのか。

A. 町内に1箇所必要な帰国者、接触者外来は余目病院と協議する。

Q. 身近な地元の医療機関との連携が必要。

A. 医療については県が中心的な役割を担うが町としても町内の医療機関と連携を強化していく。

Q. 火葬は1日何体くらいが可能か。

A. 現在は1日4体で稼働しているが増やすことは可能。

(2) 自殺対策について

…資料7で高山補佐説明

本田委員：心の病(山新掲載)

労働者が精神的にまいっている。家庭で困っている人も多くいる。うつ病との関係。

小林委員：町でも元気でご長寿を普及しているが長野は平均寿命が一位になり、ぴんぴんころりで生きがい、体を丈夫に、深酒しないことを推奨している。

無職になった人への役割。

医療は一時的、自分で治す。家庭でも役割、助け合い協力しあうことが大切。

太田委員：庄内地域の自殺率は県内でも高い。サインに気付き、見守る—ゲートキーパー養成研修、町民へ広げることが大切。県でもゲートキーパーを養成している。

(3) その他

5 その他

委員の任期は平成26年5月31日まで継続をお願いしたい。平成26年度は計画の策定が6本あり会議の回数は多くなる予定。